

令和元年度 第1回医療系フォーラム実験小委員会 議事概要

- I. 日 時： 令和元年8月23日（金） 14：00～16：00
II. 場 所： 公益社団法人 私立大学情報教育協会
II. 出席者： 片岡主査、神原委員、高松委員、三浦委員、山元委員、原島委員、二瓶委員（S）、
中山委員（S）事務局：井端事務局長、森下 ※（S）はSkypeでの参加

III. 資料

- ① 公益社団法人 私立大学情報教育協会 平成30年度事業報告書
- ① 公益社団法人 私立大学情報教育協会 2019年度事業計画書
- ② 2019年度フォーラム実験小委員会の活動計画について（案・事務局メモ）
- ③ 平成30年度 ICT活用による分野横断型授業総括
- ④ ICT活用による分野横断型授業の実施フロー
- ⑤-1 2018年度 ICT活用による分野横断型授業（ファシリテータガイド）
- ⑤-2 2018年度 ICT活用による分野横断型授業（学生ガイド）
- ⑤-3 2018年度 ICT活用による分野横断型授業（Glexa操作ガイド）
- ⑥ 2030年度 ICT活用による多職種連携フォーラム型PBL授業計画
学部の枠超え新課程 大学設置基準改定へ（2019.07.10 読売新聞記事
平成30年度第8回委員会議事概要

IV. 議事概要

1. 令和元年度の事業計画について

資料①「平成30年度事業報告書」、③「平成30年度 ICT活用による分野横断型授業総括」、及び平成30年度第8回委員会議事概要を踏まえて、昨年度の振り返りと課題の整理を行った後に事務局から資料①の2019年度事業計画書について報告・説明が行われた。

(1) 本年度の事業計画について

学部・大学を越えてネット上で学外有識者の知見に触れ、チームで多面的に学びを協働し、論理的・批判的な思考力を訓練する授業モデルの可能性を研究するため、医療・福祉系の「フォーラム型実験小委員会」では、昨年度試行した低学年対象の医療系6分野(医学・歯学・薬学・看護学・栄養学・社会福祉学)による「多職種連携フォーラム型PBL授業」の体験を踏まえて課題の洗い出しを行い、ネット上のプラットフォームで自己学修、チーム学修を進める授業運営マニュアルを作成・公表し、理解の促進を図る。また、高学年を対象に社会の有識者を交えて実際の社会課題の解決策を考察するPBLモデル授業の試験的な実践について研究する。

また、法律・政治・情報メディア系の「法政策等フォーラム型実験小委員会」においてもSDGsなど社会課題について分野を横断して問題点を認識し、法政策等の観点から解決策を議論し、提案・発表する訓練として、複数大学のゼミナールと一般市民、多分野の有識者を交えた「法政策等フォーラム型授業」を試験的に行い、可能性を研究する。

2. 令和元年の医療系分野フォーラム実験小委員会の活動計画(案)について

事務局から資料②本年度の活動計画について以下の2つの計画(案)について説明が行われた。

(1) 平成30年度の実験を踏まえて汎用性を持った「ネット上の分野横断型フォーラム授業」の「授業運営マニュアル」の作成・公表

昨年度の医療系6分野(医学・歯学・薬学・看護学・栄養学・社会福祉学)による「多職種連携フォーラム型PBL授業」の体験を踏まえ、課題の洗い出しを行い、ネット上のプラットフォームで自己学修、チーム学修を進める授業運営マニュアルを作成・公表し、理解の促進を図る。

そのため、以下の資料を見直し、授業運営マニュアルとして作成する。

- ・ ICT活用による分野横断型授業の実施フロー 資料④を見直し作成
- ・ ICT活用による分野横断型授業のファシリテータガイド 資料⑤-1を見直し作成
- ・ ICT活用による分野横断型授業の学生ガイド 資料⑤-2を見直し作成
- ・ ICT環境の操作ガイド 資料⑤-3を見直し作成

※ 作成した「授業運営マニュアル」を本年度（12月～1月）の分野連携アクティブ・ラーニング対話集会で第1次報告し、意見を聞いたうえで3月の総会で報告・公表する。

(2) 高学年（第二段階）ICT活用による分野横断型授業について、

本年度の委員会で詳細設計を行い、2020年度に実施を計画している第二段階の実験授業の準備を進める。

※ そのため、本年度4～5回の委員会で詳細設計を作成する。

(3) 授業運営マニュアルの作成・公表について事務局の補足説明

- ① 私情協の学系別委員会（30分野）で共通して「分野を越えて、いろいろな知見を組み合わせ、学生に考えさせる学びの訓練をする場が必要」と考えている。しかし、大学の授業の大半は教室であり、医療系に限らずすべての分野において教室の外で、分野横断で学ぶ場が欠落している。これは、日本の大学の大きな問題であり、どういうふうにもこの環境を準備していくべきかを考えたとき、医療系で行った「ICT活用による分野横断の学び」の進め方、ICTを活用した学びの仕方は、100点ではないにしても、刺激的なのではないか。そういう意味でこれを各分野に適応できるような、汎用的なものに組み換えて提案したい。
- ② 今年度できるだけ早く取りまとめ、各大学で汎用的に使える部分の授業の流れ、ICTを活用した授業の流れを紹介したい。
- ③ 特徴的なのは、ネット上でプロブレムマップを作り、ネットを活用してフォーラムの中でできることが実証されたことで、今まではプロブレムマップなどは、対面でKJ法などを使って張り紙したりして皆でやることしか考えられていない中、ネット上で他分野の学生がプロブレムマップで整理し課題をそこから考え・発見することができたことは大きな成果でなのではないか。
- ④ さらにネット上に学生たちの会議室がありそこで議論し、整理してネットにあげ、多のグループと意見交流する。そういう、対面では出来ない時間と場所を超えた考える授業、考察する授業、議論する授業、そういう課外授業みたいなものが今後不可避になると思う。
- ⑤ このことをすべての分野に私情協としてはアピールしていきたい。そのためにどうしてもこのフォーラムで、ある程度うまくいかなかったというのも含めて真摯に取りまとめ、どうしたらいいかという方策も入れてガイドのブックが出来ないかと考えている。
- ⑦ 資料の新聞記事にあるように、「文部科学省は」は大学設置基準を変えて、学部の枠を超えた新しい課程を連携課程という名前で出来るようにしようとしており、来年の春にはこれが実施される。国をあげてこのような分野横断型授業に取り組もうとしている中で、私情協でこういう提案を行うことに意義がある。
- ⑧ この提案が一種のモデルになって、「これだったらできる」、「もっと規模を小さくしてやればいい」等の影響が出ることを期待したい。
- ⑨ まず形にして、いろいろな場面でお披露目し、反応を見ながら、修正して最終的なマニュアル・ガイド作りたい。そのため、まずアクティブ・ラーニング対話集会で報告し、表現などが分かりにくければその表現を修正することで、大学、高、中にも使えるネット上で考える新しい授業の一つのモデルとして取りまとめたい。

- ⑩ ICT 環境は、グレクサは一つの事例として考え、いろいろな ICT 環境でも応用できることで提案したい。

(4) 授業運営マニュアルの作成・公表について主な意見

- ① プロブレムマップを使ってディスカッションし、そこから課題を抽出し、優先順位を決めて対応策考えるというのが、多分考える力、それから問題・課題発見、課題解決の一番大事なところだと思う。
- ② 第二段階は事例が中心になるので、事例からキーワードをピックアップし、マップを作って、優先順位決め進めることになるので、第一段階よりもかなり具体的になる。第二段階のほうがモデル化が進めやすいのではないかと思う。
- ③ 今回の実験授業のやり方はファシリテーターが引っ張って行くというタイプのやり方であるが、これはかなりファシリテーター養成とか、ガイドをしっかり作り込まないと、ばらつきができ、うまくいくところとあまりうまくいかないところの差が大きくなる可能性が高いのではないか。第二段階のやり方であれば、課題を作る時に専門家の中で話し合いながら課題を作って行けば、だいたいのコンセンサス等が出来る。昨年実施した第一段階のモデルはテーマが広すぎ、大きすぎて難しいのではないか。
- ④ 第一段階をやった学生に第二段階をやってもらおう。全員は難しいが2年生で参加した学生が4年生になって参加すれば討論の仕方などは経験しているので課題を解くことに集中できる。そういう学生がグループの半分とかいてサポートしながら参加すればかなりやりやすい。そこでうまくいった後に第一段階考えてもいいのかもしれない。難易度はおそらく第二段階の方が高いが、第一段階では、課題はとり組みやすくて、マップが作れないとかで引っかかってしまうことが心配で課題的には第二段階のほうがいいのではないか。
- ⑤ ホワイトボードを上手くネットの上で使えることは意外と知られていない。ホワイトボードを使って自分たちの勉強したことを文字にしてみる、それを違うグループの人達、分野の人たちに見てもらって、理解を確認し、もう1回書き直して、グループ中で理解を確認するホワイトボードの使い方は自己学修を深める上でとても良い使い方だと思う。あとファシリテーションのやり方を少し整理しておいたほうが良いと思う。
- ⑥ マニュアル化する時は、論点が明確になってないといけけないので、具体的に「この地域のこのお年寄りについての課題」などと論点を明確にして作成する必要がある。大きく具体的にでない抽象的なテーマでやると、難しい。
- ⑦ 高学年の場合は、ファシリテーションも幅を広げ、いろいろな分野の先生方、工学系、社会学、法律系、法律は全ての分野に個人情報、生命倫理などに関する。あとは経済の人も入れてファシリテーターのグループを作る必要がある。
- ⑧ 課題を作る時は、コンセプトマップを作る。経済、工学、法律なども入ったコンセプトマップを作って、コンセプトマップを満たす具体的なプロブレムを入れていく。学生はプロブレムマップを作って、それが最終的にコンセプトに繋がれば成功なので、課題を作りながら、コンセプトを課題に落としこむことをやらないといけけない。その時に、法学とか工学の先生方がいれば、事例を作る時にそれを入れ込むことができ、法学ならこういう内容を入れればそれがディスカッションになるとか。事例作成が一番大事なファシリテーター養成のプロセスになるかなと思う。
- ⑨ 資料①の今年度の事業計画では、今までの6つのグループを3つに大きく取りまとめるようにしている。医療系には本年度は法律とか社会科学系が入っていないが、再来年度くらいには医療系に法律、社会科学系、工学系なども加えて大きく2グループくらいで分野横断を考えていくようにしたい。出来るだけこう領空侵犯をしながら学びを作るということを考えたい。

- ⑩ 将来的に2つにするという構想があるなら、今後は法律、工学、経済などの先生にも入ってもらおうと思う。
- ⑪ 私情協は前から分野横断を提案しているが、7月10日の新聞にあるように「文部科学省は、学部を超えた新しい新課程を連携課程という名前で出来るようにしようとしている。来年の春にはこれが実施される。国をあげてこのような分野横断型授業に取り組もうとしているが方策は十分でない。このような中で私情協がこういう新しい学びの提案を行うことに意義がある。

(5) 授業運営マニュアル作成の進め方について

(5) -1 授業運営マニュアル作成について意見交換

- ① 授業運営マニュアルの作成としては、②の資料にある実施フローはだいたい出来ているのでこれを見直し、「ファシリテーターガイド」と「学生ガイド」を作りたい。昨年度の実験授業を踏まえて、他の分野でも使えるような標準的なものしたいと思う。本日の委員会でイメージまとめ、表現を後から考えたい。
- ② ファシリテーターガイドは、形式知しか書いていないので、むしろ暗黙知のところをこのガイドに入れていかないといけないので、その辺を少しフリートーキングしてもらえたらと思う。
- ③ 昨年の授業の内容や表現を取ってしまうと分からなくなってしまう気がする。学生名などの表現は取り、あくまで今回の医療系での授業モデルとして必要な表現部分は残して、これを基に自分達で置き換えて考えてやってもらえるようにしないと、訳が分からなくなってしまう。
- ④ 学生の名前とかの固有の名詞は削除して、医療系の授業モデルとして必要な表現の部分は残すことで良いと思う。
- ⑤ 国際PBLの会議などでは、例えば当日の朝の新聞を切り抜いて、それを課題として学生にやらせるとか、そういうふうに、事例に基づいてやるのであれば、それぞれの新聞記事であれ、実際のどこかの大学、地域の事例であれ、事例からキーワードを抽出してマップを作るというところは、何学部でも多分同じような感じでできる。
- ⑥ それは良いと思う。今回はビデオを使ったが、事例をシナリオにするとか、課題とするということであれば、この部分は工学的な事例でも、どんな分野の事例でもできる。それに自己学修する映像、資料の一覧を少し紹介して、こういうのを調べてごらんというのがあってもいいかもしれない。
- ⑦ 今回のシナリオをもう一度そのような視点で読み直し、追加・削除・修正して汎用的に使えるものにしたい。
- ⑧ 医療系の事しかわからないので、どこが共通項で、一般化できるかがわからない。
- ⑩ ネット授業のやり方という部分を共通項でえぐりたい。授業のシナリオなどはそれぞれの分野で考えればいい。ネット授業をやるために、学生達に考えさせる仕掛けとして、どういうものが大事かというところをピックアップして紹介したい。今回は医療なので、こういうテーマでこのように考えたが、それぞれの分野でテーマを考え、当てはめて考えてもらえるようにすれ良い。
- ⑪ それならばそんなに手を加えなくてできると思う。ただ、固有の表現など外に出る前提で作っていない部分があるのでそういう部分は全部直さないと外に出せない。
- ⑫ 大事なのは何回やるかだと思う。課題の大きさとか、いろいろあり、4回ではできない、10回くらいやらないと無理、2回でいいとか分野・テーマでいろいろ考えられる。
- ⑬ これは一例であって、何回やるかというところはそれぞれのテーマ・内容で考えることで、ここではこういうイメージで設定してください。医療はこう考えたが、あくまで参考としてお考えくださいという検討の視点を※印に入れておいてもらえれば良い。あまりに崩してしまうと、訳が分からなくなる。

- ⑭ 我々はこちらに考え、こういう課題を設定したので4回でやったと※印で解説とつけば、資料⑤. 1の16ページの部分だけである程度伝わると思う。
- ⑮ 資料⑤. 1の18ページの学びのプラットフォームを、どういうふうに使ったか、その具体的な内容は共通で使えるのではないか、ビデオを使うかどうかは別にして。
- ⑯ 22ページのサマリーなども見本をつけておけば良い。そのように必要な部分ピックアップして紹介すると良い。
- ⑰ 29ページの授業の流れなども超高齢化社会を考えて、こういうふうに組みたてましたという事で、他のテーマがあれば、同じように考えてくださいということにすれば良い。
- ⑱ 基本的には自己学修をして、それを共有して、グループディスカッションしてという流れはどの分野でも同じだと思う。
- ⑲ 大事なものはネット上でプロブレムマップやホワイトボードを使った学修、10ページからいろいろあるが、こういうのを使ってやると出来るのですよという事を紹介してあげる。それだけでも随分違うのではないか。全部を綺麗に完結する必要はないので、とりあえず使える部分を使う。
- ⑳ その程度の修正であればざっとは作れる思う。

(5) -2 授業運営マニュアル作成についてのまとめ

- ① ポイントは、全部を使って分厚いものを作るのではなくて、少し断片的でもネットを使って、どういうメリットがある授業ができるかということを実験したレベルでの意見をつけて、マニュアル化して紹介すること。
- ② 材料は既にあるので使えるものは使って、言葉を補うものがあればそれを補ったり、ページを起こしたりしてということで作成すること。
- ③ このへんのところはやはり、片岡先生が適任なので片岡先生にお願いしたい。
- ④ ソフトは何を使うか、ビデオを見るとかはわからないのであまり細かいことには触れないで29資料⑤-1 29ページのイメージと資料④を充実させれば、何かできるのではないか。
- ⑤ 授業の流れで、1、2、3となってくるあたりをもっと書き込んでちょっと足す、それとこれとをくっつけて完成品にすると、手間がかからないのではないか。
- ⑥ 学生の固有名詞などは消して、医療で応用した事例がこれですというように紹介する。
- ⑦ 資料④の資料が一番基本になる話だと思うので、ここに、ここからのエッセンスを、どんどん書き込んでいく、16ページの自己主導型学修などをいれて作り直すようにしてはどうか。
- ⑧ 事前学修、自己学修をこういうポータルサイトの上で行ういろいろなカテゴリー、ビデオを見たり自分で見た感想を記述させたり出来るようになったかとかを書きこんでいけば相当いけるかもしれない。
- ⑨ 資料⑤-1 18ページの ICT 学修支援システムをズームして説明するだけでも十分使えるのではないか。
- ⑩ 自己主導型学修は自分で学ぶ内容を決めて自分で勉強することなので、先生がテーマを決めてやるのではなく自分で決めることが大事で、それは学修項目。なので問題を抽出して問題を解決するために、何を勉強すればいいのかを自分たちで考えさせる。そこだけ説明付けければ細かく書く必要はないかなと思う。
- ⑪ 後は、ファシリテーションのやり方を1〜2ページ作って、全体で10ページ位で良いのではないか。
- ⑫ あともう一つ重要なのは、こういうフォーマット、これのひな形つけてあげると良いと思う。そうすれば全部自分で書かないで済む。ワードなどのテンプレートとかで渡せると良い。
- ⑬ 今回よくここまでできたと思う。47ページ以降の「ネット授業2」などは大変だったと思うがよくできている。ノウハウがほとんど無く、あっても閉じられている中で、片岡先生にビデオで説

申しいただき、「こうやればできるICT活用」、「ICT活用による分野横断型授業のすすめ」などとして私情協のサイトで多くの人たちにオープン化して理解していただきたいと思う。

⑭ とりあえず10ページくらいですね。

⑮ あまり多くても見ないので10ページくらいで、「医療系でやった結果を踏まえて、解のない問題に学生が取り組むときの一つのネットを使った授業の進め方の参考にして頂きたいということ
でアピールしていきたい。

⑯ 国としても中教審などで検討しているが良い方法がないのが現状と思う。そういう風が吹いて
時代が求めている時なので、片岡先生には大変だと思っておりますがお願いします。

⑰ こういう動きがまさにあり設置基準まで変えていくわけなので分野横断型授業はまさに重要に
なり、必ず評価されると思う。

⑱ 10ページ程度で、問題発見・問題解決ということがキーで、プロブレムマップで整理するとい
うことも入れるということと自己主導、ICT環境を活用して分野横断で学ぶイメージですね。

⑲ 対話している時に自分の意見がどのくらい共感されているかという共感力、共感力が大事な
のです、自分の意見がどのくらい共感されているかというの知れば自信を持ちます。やはりそうい
うセルフコンフィデンスを高めるということが対話授業の中でとても大事です。後からアンケート
取るよりも、瞬時に、ICTを使うというメリットがあるのではないかと思います。

⑳ eポートフォリオ、成長はシートなども入れ、細かいところは参照ページに行くリンクを作れ
ばよいのではないかと。

(6) 高学年を対象の第二段階 ICT 活用による分野横断型授業について

(6) -1 昨年度の実験授業を踏まえて神原委員の提案

教育とは内容と手段と評価だと思うので、PBLでの問題発見、次にディスカッションの方向性、そこにファシリテーターがどう入っていけるかが最大の課題であり、ファシリテーターの能力・力量が求められると思う。今回のように押し付けのテーマでなく、もっと幅広く考えさせる必要があるのではないかと。例えば、プロモーション・ヘルスなどに医療として層を当てる、ノーベル経済学者が言っているように健康長寿社会は医療だけが貢献したのではなくいろいろな分野の人が関わらないと、健康長寿というのは成り立たないということなど社会の流れ、スピードというものと各分野がどうマッチングして進んでいくかということなどを頭に入れて整理させることが大事ではないか。その意味で、1回参加した学生がその成果を見て、それで、次のところに移るまでの間に何を考えたか、何を逆に間違っていた、あるいは、もっとこういうことが必要なのだということ再認識するという振り返りする時間がこの中に必要かもしれないと思う。

主な意見

① そこは非常に大事なことで、そういう自分たちで振り返りが出来る仕組みをネットの上で作
って、出来るだけネットで学修させてあげたいと思う。

② 抜けているのは学修項目を決めるということで、問題を抽出した後に、問題を解決するた
めに何を勉強したらいいのかと学修項目を決めて、その手段をある程度、ここを調べればこれが
分かるよねという事をやること。ファシリテーターが大事なのは挫折しないように、こういう
課題だったらこういうところにあるよとか、この課題大きすぎるから、もうちょっと細かく分
けて考えたらどうか、こういう本を何冊も読まなければだめだよとファシリテーターがうまく
対処して、その後調べた成果をまとめると、到達感も得られ、解決に繋がるということが実感
できる。今回は、そういうことができていなかった。

③ 今言われたその振り返りは非常に重要なのですが、たかだか1時間2時間の授業の中で振り
返るところまでは無理だと思う。

④ 大事なものは、低学年で持っていた世間一般の考え方が、4年、6年の教育の中で変質し、専門

家としての見方しかでず、患者さんの立場でなくサービスの提供側の立場で議論すること。

- ⑤ 振り返りの話をもう少し長期に亘るふりかえりに出来ないか。例えば低学年の人達に同じように高学年でも同じテーマでやらせる。学修効果があったのかどうか、2年経ってあの時のあれはどこに生き残っているのか、あの時こんなことを考えていたのだ、その時に思った事が今でもできていないのではないかなど、振り返りをもっと長い目で見られるようにしてあげればいいので。
- ⑥ その時はそう思っていたが、その時に思ったことは実は正しくなかった。正しいと言われたことは実は誤っていたということもある。極端にいうと事実を覚えたりするのが大事なのではなくて、こう考える力をどうやってつけるかと、その時の考える力というのは、素人の時に思ったことというのは実は一番大切だということなのではないかという気も。
- ⑦ だから、この教育でやるのは、その事実関係を覚えさせる勉強とか、そんなのではなくて、まさに考えさせる勉強、考えるという技を身につけるといふことに意義があるのであって、そのどんなに時間軸が早かろうがその時間軸の中で自分が何を考えられるかというトレーニングだというふうにするべきなのではないですか。
- ⑧ もう一つは、たかだか3回、4回の授業でも視点が少し広がったり他の人が自分の考えていなかった部分に至ったことで、こういうところでの振り返りは出てくると思う。
- ⑨ 原点を第一段階の原点として、第二段階でどう伸びたか、これはやはり1年、2年のスパンがないと難しい。
- ⑩ 本人がどう考え、どう自分の成長を考えているか。それに対して第三者から見て、その人の成長というのをどう捉えられるかという、これはもう教育の成果そのものだと思いますけれども、そういうものがこれに入ってくると、その単にICT使った学修ができましたというのではなくて、これによって何が達成できるのかというものがもう少し成果物として、本当の意味での成果物というのが出来るのかもしれない。
- ⑪ 3年後、5年後どう変わっていくかは本人がそこで振り返ればいっわけ各問題について自分は今こう考えた、4年生の時点でこう考えた、2年生の時点でこう結論付けた。それはなぜそう考えるかということを書かせたい。
- ⑫ 今でも規定のものに書かせるフォーマットになっているので箇条書きで自分の成長を第一段階ではどうか第二段階で何がどうするかを書かせると良い。但し、細かいところは出来るだけ減らし、学生の負担が増えないようにして。
- ⑬ コンピテンシーをどうするか。コミュニケーション、情報共有とかは...
- ⑭ コミュニケーション能力などはディスカッションの発言や行動、調べて来たこととかいろいろな項目があると思うが、結果の成果物で僕は見てあげるべきだと思う。
- ⑮ 分野横断教育だから、他の分野の人たちのいろいろな意見とか発言が、それがその自分の考えにどれだけ寄与したかということが重要でそれが最後のまとめ。
- ⑯ そういう意味でファシリテーターの能力・技量が必要になるのでファシリテーターの養成が重要になる。特別なコースで作っておかないと、なかなか難しいのではないかな。
- ⑰ ファシリテーターが軌道修正したり、ちょっと入って行くということが必要なのだと思う。その場で無理でも後考えてねというマニュアル作っておいて、チャットルームで、後でやってもらうような仕組みも必要。

(6) -2 第二段階の分野横断型授業について意見交換

- ① 第二段階の分野横断型授業のテーマについては、最初から、答えが見えているようなものはやめたほうがいいと思う。皆が考えられるような土俵が必要で、いろいろあると思うが、今これを横串にするのはAIではなか。もう一つはオンライン診療・服薬指導、オンラインで診

療から服薬指導までの一貫通貫という提案が出て来たが、いきなりオンラインではなく、何回か診察し、本人を確認し、オンラインにどうかを医者が判断し、家族の都合や通院が大変な老人などをオンラインで診療する。まさに。そういう ICT を使った世界も必要なので、いろいろな視点で、実践型の課題を何か作れないかなと思っている。

- ② 課題を作るのは、地域における課題だと、原島先生とか小原先生にある程度フレーム作ってもらいますけれども、こういうキーワード入れて出た課題や事例でもいいと思う。
- ③ 今度は4年生なのでまさに CBT とか、オスキーとかが目の前にぶら下がっていて、もう臨床漬けになる。だから臨床漬けの学生に、これからのまさに具体的な臨床の問題をケーススタディみたいな形で提示する、例えば障害のある人、子供を育てるお母さん、特にシングルマザーとか、多様な問題を抱えている人たちに対して医療はどうするかとか、それから死の問題、終末期だとか、いくつかそのメニューを作って、メニューの中で議論すべきテーマ、例えば所得の低い人たちに対して、その臨床を医療人としてどう対応、考えるのかとか、障害持つ人とか、いろいろな Issue に対するポイント、そこをみんなで議論をする、どうにもならないという議論になってくると言われたようなテーマが、ポイントとして出てくる。最初からポイントを示すのではなくて、隠しておく、そういう議論が出来るようなケースを選んできてやらせたい。
- ④ やはり臨床のそういう現場の話の食いつきの方が良いように思う。学生たちもそればかりが今頭の中にあるわけですから。
- ⑤ 行政も入ってくる、地域だから。やはり規制改革しないと駄目、やるからには規制改革を発案するくらいのところへ持って行きたい。そのためには少し談論風発的な話をやってしまって結構、今これがあるから壁で出来ないではなく、それを飛び越えさせるにはどうするかを考えさせる。
- ⑥ ケーススタディとかに関わってきますね。私がやっているのは本当に高齢化が進んでいる地域、などいろいろなデータが、詳細なデータが必要になる。
- ⑦ その基本はいただいて、そこにいろいろ加えていくのが一番やりやすいかなと思うんですけど、セッティングを決めて作ってもいいと思う。ケースももちろん何か素材はあったとして。
- ⑧ そのままなぞる必要は全然なくて、2つのケースを1つに回す。さっきの話で、どういうテーマを隠し玉にしておくかという部分も選んで、こういうのは議論しやすいケースを提供してくださいと。何でもいから提供するのではなくて、こういうのに関連する事例を紹介してくださいという。ややこしいですけども、最近それこそ個人情報保護で、生なまのデータを渡すと、本人の了解を得ないといけないとかあるので。
- ⑨ 次回少しなんか問題を出しあってもらおうということはどうでしょうか。メモでも何でも箇条書きで、または口頭で言われてもけっこうですから。
- ⑩ 学生の自分の親とか、あるいはおじいちゃん、おばあちゃんとか、親戚のおじいちゃんおばあちゃんとか、80、90 の人がいると思う。そういう人を観察し、何か問題があるのか、やはり自分の問題として捉えないといけないと思う。自分の周りにある実存する課題、それをやはり実感するというのが、大事なのではないかなと思う。健康長寿社会が何かバラ色みたいに言ったけど、現実的には90 超えると認知症が75%超えると言われる。決して健康長寿社会がバラ色ではないということを現実の目で学生が自分で見てくるということが大事だと思う。平均寿命が延び、世界で何位になったと明るい話ばかりしているが実は認知症や寝たきりも世界で一番多いわけです。そういう負の側面、これは両立するものだと思うが、病院に来る人だけを見ているのでなく現実の今の日本社会のこの課題を解決するためには、現状を自分の目で見てそれをやるのが問題発見に繋がると思う。
- ⑪ 高学年だと、医歯薬は何年にするかですが少なくとも4年生になり、国家試験や就活とかが

あるが何月くらいだったら可能すか。

- ⑫ 来年、2020年はオリンピックがあり、就活のほうは今の予想だと3月～5月頃ではないかということ、それから2020年に限ればオリンピックの関係でボランティアなどもあり、ゴールデンウィークなしで授業を7月いっぱい、そして試験、その後9月のはじめからなのですが、今回の実験に参加した学生にとっては、オリンピックのほうに行くことがまず優先なので難しいと思う。
- ⑬ 3.4.5が就活で、7月から、9月の初めまでパラリンピックがありボランティアで…
- ⑭ 試験は7月。卒業試験は1月、国家試験は3月。そうすると9月終わった10月とかになるが、その頃は受験勉強で難しいのではないか。
- ⑮ うちに限って言うならば、卒検がびっしりあるので10月は難しい。
- ⑯ 第一段階やった学生が皆第二段階はかなり難しいが、第一段階やって第二段階やる学生と第一段階なしで第二段階やる学生が混じっていると、違いが良く分かると思うし、個人の違いもあるが共通したものが出来るかもしれない。そういう意味では何人か第一段階で参加した学生が来年できると良いと思う。
- ⑰ 夜やることはどうか。但し、6時半とかの開始だと、北海道の学生の終電がなくなるという問題もある。家でやる場合はパソコンもっていてネットの環境が家に内と行けないという問題がある。
- ⑱ 来年度は日程がかなり厳しい。早く就活決まってくれば5月くらいに可能性があるがその辺は良く分からない。
- ⑲ 何か、中心テーマがもし決められれば、それに沿って第二段階の検討が進められますが原島先生、何か中心的になるようなものはありますか。
- ⑳ 何かここに、けっこう見えているものとか、こう正確知らないというか、分からない部分を、いろいろなものがあるかもしれない。障害児のシングルマザーとか、栄養だと、治療だけではなくて一次予防とか、そういう観点がかかってくるのでそういうところにかかわる部分とか。
- ㉑ 神原先生の出していただいた意見を踏まえると少子高齢化は変えられないし、社会保証は社会保険制度というのが、それ自体対策そのものなので、何かあまり面白い話ではない。そうすると、格差社会って何か、これは、何か出来るかもしれないというのがあって、しかもここに書いてあるように、本当にたくさんの格差があって、一つずつ、でも格差社会でキーワードにしたら、いろいろなこう問題が、シングルマザーの問題もそうかもしれない、障害もあるし、虐待の問題とかもそうかもしれないし、何か話題としての広がりはかなり大きいような気がするが…
- ㉒ ただ学生は、比較的恵まれた家庭から来ていると思うので、そんなことがあるのだということあまり自覚しないまま専門職になっていくというのがあって、実際に医者になって、高齢者の家に行って、こんな状態で生活している人がいるなんて知らなかったとびっくりするようなことがあるとするならば、豊かな子供たちに対する一つのカツを入れる、そういうのってあるかなと思う。一つの議論としては、キーワードとしてはあるのではないか。
- ㉓ 解決はできないかもしれないけど、自分たちとしてその状況で何が出来るかを考えさせる。
- ㉔ 出来ないということでもいいと思う。出来ないから規制緩和だとか、新しい施策が必要ではないかとか何かを考える。
- ㉕ そういう声を通るようにする。予算をつける。シングルマザーを優先して採用する、就職できるようにしろとか。どうしようもないことを確認し、今はどうしようもない状況になっている事を理解して、ではどうすればいいのだと考える。
- ㉖ 家に行ってみたら、冷蔵庫の中何も入っていない。よく見たら、満足な食事をとっていない。家の中はごみ屋敷になっていて、カップラーメンの空き箱というか、カップがたくさん積んで

あるとか。それは普通にあるが、でも多くの学生は多分知らない。

- ⑳ 格差社会で考えると今のような状態でびっくりして帰っていったとか。
- ㉑ 例えば、1人暮らしでというが、この間のNHKのビデオ行くと、一人暮らしのほうが健康長寿の良い結果が出ていたりして。一般論としては1人のほうが社会的にしんどいような感じがするのだけど、1人暮らしのほうが長寿だということで何か本当に混在している。
- ㉒ それは元気だから一人暮らしできるのです。離島に行くとみんなお年寄り元気なのです。何でかという、病気になると本土に渡ってしまうからです。橋ができると、みんな家に居られるようになるので、その島は病人の、寝たきりのお年寄りが増えるのです。救急車がいつでも来てくれるから。
- ㉓ そういう視点も面白いですね。個別にしか考えないですよ、4年生になると。いずれにしろ何か、光があたっていない人たちの存在というのを気付かせるというのもあるのではないかなと思うのですけれども。
- ㉔ 次回も続けてこれを検討したいと思うので、少し考えていただいてそれを次回持ち寄っていただき、さらに検討したいと思います。

3. 次回の日程

今回は第一候補を10月2日、第二候補を10月8日として、他の委員のご都合を確認のうえ日程を確定することにした。

その後、他の委員のご都合を確認し、10月8日（火）17：00開催に決定した。